

七里の渡し跡 **歴史を学ぶ**
『伊勢国一の鳥居』を訪ねて

【日 時】 平成27年2月28日(土)
8:30~12:00

【コース】 集合・受付 桑名駅東口 ロータリー
解散 寺町通り商店街

桑名駅東口(出発) → 七里の渡し跡 → 春日神社 →
桑名別院本統寺 → 寺町通り商店街「三八市」(解散)

【案内人】 桑名歴史案内人の会
1班 田中 浄
2班 山下博子
3班 饒村 寿
同行 中根静也 (会長)
加藤重樹 (事務局)

【解 説】 桑名宗社(春日神社) 禰宜 不破義人氏
七里の渡し・伊勢国一の鳥居建替実行委員会 会長 水谷景一氏
桑名別院本統寺 職員
寺町通り商店街振興組合 理事長 佐藤博之氏

主催：三重県 後援：桑名市 桑名市教育委員会 協力：桑名歴史案内人の会

事務局

〒511-8567 桑名市中央町5丁目71番地
三重県桑名地域防災総合事務所 歴史散策係(地域防災課)
電話：0594-24-3821

◆ 七里の渡し跡

慶長6年(1601)正月、江戸と京都を結ぶ東海道が制定され、桑名宿と宮宿(現名古屋市中熱田区)の間は、海路7里の渡船と定められた。のち佐屋宿(現愛知県愛西市)へ川路3里の渡船も行われた。宮までの所要時間は3~4時間と思われるが、潮の干満によりコースは違っており、時間も一定ではなかった。

ここは伊勢国の東入口にあたるため、天明年間(1781~1789)に、伊勢神宮の「一の鳥居」が建てられ、以来伊勢神宮の遷宮ごとに建て替えられている。

明治になって、東海道制度は廃止となったが、揖斐川上流の大垣との間に客船や荷物船の発着場となっていた。

昭和34年(1959)の伊勢湾台風以後の高潮対策工事のため、渡船場と道路の間に防波堤が築かれて、旧観は著しく変化し、港としての機能は全く失われた。昭和63年から平成元年にかけて、付辺の整備修景工事が行われた。

なお、現存する常夜灯は江戸や桑名の人たちの寄進によって建立され、元は鍛冶町の東海道筋にあったが、交通の邪魔になるので、ここへ移築された。元は天保4年(1833)建立のものであったが、昭和37年に台風で倒壊したので、台石は元のままであるが、上部は多度神社から移したもので、安政3年(1856)銘。



◆ 春日神社(桑名宗社)

桑名宗社は式内桑名神社と式内中臣神社の両社からなり、古来から桑名の総鎮守である。桑名神社は桑名開発の豪族である桑名首の祖神である天津彦根命とその子天久々斯比乃命を祀る。永仁4年(1296)に奈良から春日大明神を勧請して合祀したため「春日さん」と親しまれている。

江戸時代には幕府から百石の神領寄進を受けた。文化4年(1807)建立の拝殿、天保4年(1833)建立の堂々たる楼門など全社殿は戦災で焼失。昭和29年(1954)に拝殿再建。平成7年に楼門再建。

社宝として「安南国書」、「徳川家康日課念仏」、「東照神君画像」、「徳川家康座像」、「松尾芭蕉真蹟短冊」、「太刀、村正作」など多数あり、「春日神社石取祭(国指定重要無形民俗文化財)」、「春日神社青銅鳥居」、「御車祭奏楽」、「御膳水井」もある。境内には山口誓子句碑・千葉兔月句碑がある。



○春日神社の青銅鳥居

春日神社の広小路に立ち、東海道に面して立つ。寛文7年(1667)に建立され、高さ6m90cm。治工は桑名鋳物師の辻内善右衛門尉藤原種次。桑名鋳物のモニュメントとして旅人に偉容を誇った。建立後3度にわたり破損したが、その都度辻内家の子孫によって修復された。

○しるべ石

青銅鳥居の傍にあり、明治18年(1885)、東京の蘆田政吉により建てられた。正面に「志るべい志」、左面に「たづめるかた」、右面に「おしゆるかた」と刻まれている。これは、行方不明の人を探すための伝言板であった。人々が多く集まる各地の神社門前に建てられていたのが、現存するのは全国でも珍しい。

◆ くわなべつじんほんとうじ 桑名別院本統寺

浄土真宗大谷派。桑名御坊とも称し、俗に「ごぼうさん」とも呼ばれる。織田信長が大坂石山本願寺攻めの時に、本願寺支援のために尾張・美濃・伊勢の浄土真宗の評義所として設けられた。慶安2年(1649)本統寺の寺号を許される。寛文5年(1665)焼失し、貞享3年(1686)再建。宝暦12年(1762)本堂を改築し、八棟造りとし、建坪は219坪あった。これは富豪山田彦左衛門の寄進であった。他に書院・広間・茶所・会所・鐘楼・鼓楼・経蔵などがあり、文久3年(1863)将軍徳川家茂が宿泊している。明治初年には桑名城の櫓を移した聚星閣が出来た。明治13年(1880)には明治天皇が駐泊された。明治17年**別格別院**となる。



戦災のため全建物が焼失。昭和25年(1950)に再建。鐘楼・山門は大阪八尾別院から移した。

貞享元年(1684)に松尾芭蕉が宿泊し、「冬牡丹千鳥よ雪のほととぎす」の句を詠む。現在の境内には昭和12年建立の「冬牡丹句碑」、享保16年(1731)建立の青銅製燈籠1対、昭和13年建立の親鸞聖人銅像(広瀬精一寄進)があり、墓地には山田家合葬墓5基がある。

◆ てらまちどおりしょうてんがい
寺町通り商店街

江戸時代に城下の外郭堀の西側に、計画的に寺院を集めたところで、海蔵寺・長寿院・本統寺・倫崇寺・常信寺・香林寺などがある。

寺院の門前町で、参詣者相手の商品や見世物小屋が立ち並んだ。現在も、桑名市東部商店街の中心をなし、特に「三八市」がにぎわう。



○ 「三八市」

毎月3・8・13・18・23・28日の午前9時頃から午後1時頃まで開かれ、大勢の人出で賑わいます。この市の魅力は、商品の鮮度と安さにあります。また、この市は地元住民のふれあいの場にもなっています。

『伊勢国 一の鳥居』 建て替えについて

伊勢神宮の式年遷宮の際に解体される旧殿に使用された用材は、神宮内やその摂社・末社をはじめ、全国の神社の造営等に再利用される。

外宮正殿の棟持柱については宇治橋おはらい町側鳥居となり、さらに桑名の七里の渡しの鳥居となります。

ご用材は、御正殿の棟持柱として20年、更に宇治橋の鳥居として20年、そして更に20年、伊勢の入り口である桑名の七里の渡しの鳥居に建て替えられ、60年もの永きにわたり再利用されています。

【20年前（平成7年）のお木曳の様子】



八間通り



八間通り
(寺町付近)

写真提供 : 七里の渡し・伊勢国一の鳥居建替実行委員会

出展 : 志るべ石 —桑名史跡めぐり— (桑名市教育委員会)

※資料に使用しました画像・文章につきましては、すべて制作者の承諾を受けております。